

平成 30 年 3 月 19 日
 国立情報学研究所
 学術コンテンツ課

平成 29 年度 SPARC Japan セミナー実施報告

1. 企画 WG グループ

研究者、及び実務担当者によるワーキンググループを設置、年間テーマ「オープンアクセス温故知新-ふりかえって次をみつける-」とした上で SPARC Japan セミナーを企画・実施した。主な活動内容は以下のとおりである。

- ・メーリングリストでの意見交換の上、企画書作成
- ・プログラム案に基づき、講演者・パネリストへの打診
- ・セミナー当日の司会・運営補助
- ・広報用チラシの作成

【企画 WG メンバー】

	回次	名前 (五十音順)	所属・役職
研究者	1	能勢 正仁	京都大学大学院理学研究科附属地磁気世界資料解析センター 助教
	3	林 和弘	科学技術・学術政策研究所 科学技術予測センター 上席研究官
	2	坊農 秀雅	大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 データサイエンス共同利用基盤施設 ライフサイエンス統合 データベースセンター (DBCLS) 特任准教授
	3	蔵川 圭	国立情報学研究所 学術コンテンツ課 特任准教授
図書館員	2	笹渕 洋子	早稲田大学図書館 調査役（電子資料担当） （大学図書館コンソーシアム連合運営委員会推薦）
	1	中谷 昇	鳥取大学附属図書館 学術情報部図書館情報課 （オープンアクセスリポジトリ推進協会推薦）
	1	林 賢紀	国立研究開発法人国際農林水産業研究センター 企画連携部情報広報室情報管理科情報管理係 （これからの学術情報システム構築検討委員会推薦）
	2,3	梶原 茂寿	室蘭工業大学附属図書館 総務広報課 図書学術情報室 室長 （国立情報学研究所推薦）

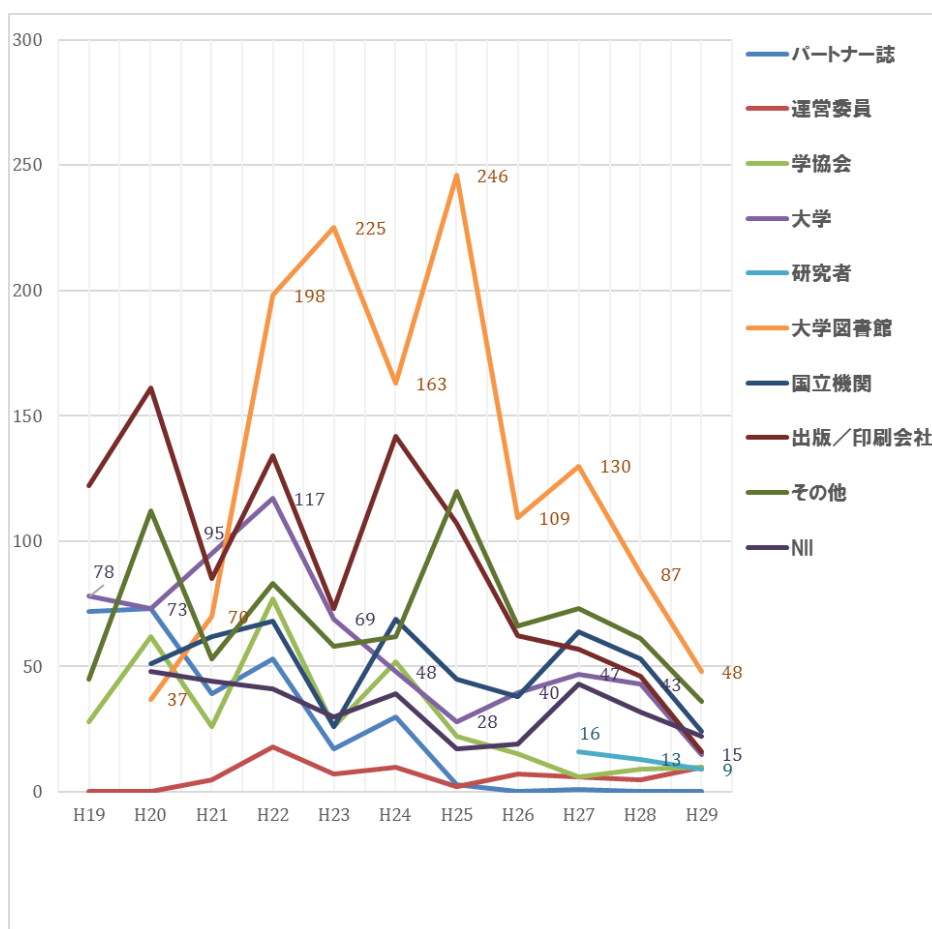
2. 年間テーマの設定

平成 27 年度より年間を通したテーマを設けることとなり、平成 29 年度は「オープンアクセス温故知新-ふりかえって次をみつける-」をテーマとして設定した。具体的な個別テーマとして、第 1 回は研究データの管理と流通の面から図書館員と研究者の新たな関係を考え、第 2 回で特にプレプリントを取り上げてオープンアクセスの状況確認と展望を議論した。第 3 回では、科学史・科学社会学など様々な面から、オープンサイエンスとは何かを考え直した。

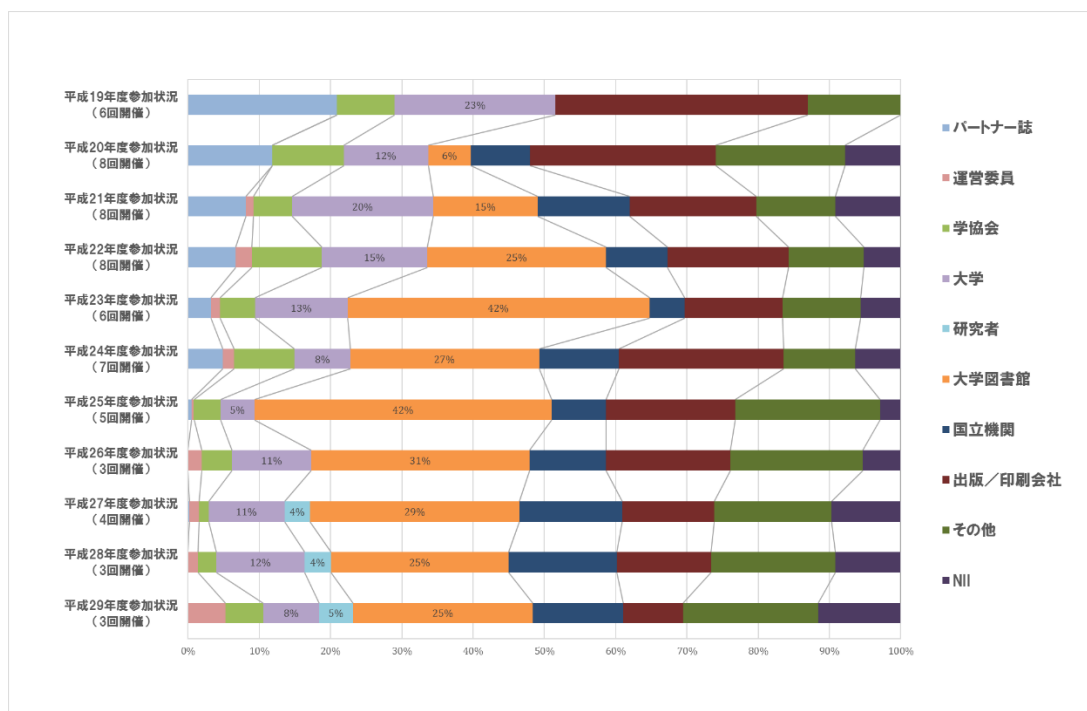
3. 実施状況について

平成 29 年度の実施状況は【資料 2-2-2】のとおりである。発表資料・ビデオ映像・記録ドキュメント等はウェブサイト(<http://www.nii.ac.jp/sparc/event/>)で公開している。また今年度は全 3 回で、来場者の要望が多数あったこともあり、スクール形式を採用し、来場者も PC を使えるようにするとともに、動画中継を行い、同時に自由に多くの人が視聴し参加できるようにした。その結果、会場スペースが狭くなり、定員を減らざるを得なくなった。

4. 参加者人数の経年変化



注) 平成 29 年度については定員枠の変更あり、詳細は 3. を参照のこと。



1 回あたりの平均人数	
平成 19 年度参加状況 (6 回開催)	58
平成 20 年度参加状況 (8 回開催)	77
平成 21 年度参加状況 (8 回開催)	60
平成 22 年度参加状況 (8 回開催)	99
平成 23 年度参加状況 (6 回開催)	89
平成 24 年度参加状況 (7 回開催)	88
平成 25 年度参加状況 (5 回開催)	118
平成 26 年度参加状況 (4 回開催)	89
平成 27 年度参加状況 (4 回開催)	111
平成 28 年度参加状況 (3 回開催)	116
平成 29 年度参加状況 (3 回開催)	63